

第16回 よこはまウォーキングポイント共同事業者選定等委員会 会議録	
日 時	令和4年8月4日(木) 14時30分～16時30分
開催場所	帆船日本丸訓練センター 第3会議室
出席者	【委員 4名】岡村委員、蟹澤委員、田口委員、米山委員
欠席者	澤田委員
開催形態	公開(傍聴者0名)
議題	1 委員長の互選について 2 令和3年度の事業実績と4年度の取組について 3 令和3年度 利用状況報告書について 4 生活習慣病および医療費への影響分析について 5 その他【事務連絡】
議事要旨	
【はじめに】	
事務局	事務局よりあいさつ(健康福祉局 嘉代健康安全部健康推進担当部長) 委員の紹介 事務局・共同事業者の紹介 定足数の確認 委員5名のうち4名が出席のため、定足数を満たし委員会が成立していることを確認
【議題1 委員長の互選について】	
事務局 岡村委員長	委員長の互選 委員の互選により委員長を岡村委員に決定 委員長代理者の指名 委員長の指名により委員長代理者を澤田委員に決定
【議題2 令和3年度の事業実績と4年度の取組について】	
事務局	【報告】 資料1について説明。
田口委員	血压に焦点を当てていますが、血压に着目された理由を教えてくださいませんか。
事務局	令和2年12月に発表した事業検証により、よこはまウォーキングポイント参加者に高血圧の新規発症抑制効果があったということを受け、ウォーキングと血压測定の習慣化を図り、高血圧対策に意識を持っていただくために取組を始めました。
田口委員	何か横浜市として健康課題があるというわけではなく、ウォーキングと血压に関連があるのではというところから始めたということでしょうか。何か健康課題を抱えているのであれば、市民の皆様にもそういったこともお伝えできるのかと思いましたが、いかがでしょうか。
事務局	健康横浜21の評価や、今後の作業の中で血压の部分に健康課題があれば、そのことを踏まえて広報していけるよう考えていきます。

岡村委員長	<p>血圧の取組は、せっかく血圧計を配布されるので、当たった人は良いが当たらなかった人でも、ご自身で購入されたい方もいらっしゃると思うので、しっかり広報していただければ良いと思います。自分で血圧を測ることはすごく大事なことで、ぜひこれをきっかけに家庭血圧測定を実施していただければと思います。</p>
事務局	<p>個人向けの取組として、9月から10月に、1日平均8,000歩を目標とするミッションをアプリで開始するので、しっかり広報を行っていきます。それに先立って、この8月から、アプリの歩数送信時や歩数計マイページにて血圧対策に関するセルフチェックを実施しておりますので、それを通じて9月からの取組につなげていきたいと思っていますので、しっかりPRしていきたいと思っています。</p>
岡村委員長	<p>フォトコンテストのテーマも考えておられそうですね。</p>
事務局	<p>フォトコンテストも8月のテーマを「野菜たっぷり」にしたのは、カリウムを摂取していただきナトリウムのとり過ぎを緩和するという血圧対策の取組の1つです。写真映えするような写真でもっと楽しんで投稿していただくために食の観点も含めて開催させていただいておりますので、ご覧いただければと思います。</p>
<p>【議題3 令和3年度利用状況報告について】</p>	
事務局	<p>資料2について説明</p>
田口委員	<p>事業に参加すると地域の方とのつながりが生まれるというのは面白いと思って聞いておりましたが、そのメカニズムが分かりましたら教えて下さい。</p>
事務局	<p>参加者アンケートにて、よこはまウォーキングポイント事業を知ったきっかけを調査しているのですが、きっかけとして、「知人・友人」という回答率が高い状況です。ご友人等に誘われて事業を始め、歩き仲間が増えるといったことがあると考えています。</p>
田口委員	<p>一緒に歩いていく中で会話が生まれているということですね。そのあたりも孤立予防に役立っているのかと思います。</p>
岡村委員長	<p>単に運動だけでなく、メタボリックシンドロームへの効果や人とのつながりという部分を分けて（検証を）実施されているので、少なくとも回答されている方にはいい情報だと思いますし、いい傾向だと思います。どうしてもコロナの影響が出てしまいますが、少し持ち直しているような状況ではあると思います。</p>
田口委員	<p>横浜市の特徴なのではないかと思うのですが、企業の参加が多い理由がもしあればお聞かせください。企業が多い自治体ということもあるのかと思います。</p>
事務局	<p>横浜市では、健康経営を進めておまして、横浜市の健康経営認証を受けようとしたときの条件の1つとして、よこはまウォーキングポイントに事業所登録しているというのがあります。他にも条件の項目はあり、必ずしもよこはまウォーキングポイントへの事業所登録は必要ないのですが、そういったところで始めていただいているのかと考えております。また、今回の血圧の取組も企業向けに先日募集を終え、8事業者を選定しました。選定した事業者にはアプリに計測データを自動転送できる血圧計を置かせていただいて、オンラインセミナー等を開催しながら、会社での血圧測定とウォーキングを実施いただく取組も進めております。</p>
田口委員	<p>中小企業の参加はどの程度でしょうか。</p>

事務局	令和3年度の状況で申し上げますと、総従業員数が1人～49人の事業所が53.2%。50人から300人というところが37%。301人以上が9.8%と分布になっていて、比較的中規模、小規模の企業様が多い状況です。
蟹澤委員	事業所で参加されているの方が、平均歩数が高いというのは、日中歩数計をつけて仕事をされているということによろしいのでしょうか。
岡村委員長	今おっしゃられた側面が1つと、会社の中で周りがやっていると抵抗感なく取り組む方が多いというのはやはりあると思います。
事務局	動ける方が会社に行っていれば、歩数も多いということもありますし、仲間内や場合によっては会社からの働きかけという面もあるでしょうし、そういう意味では、会社という組織が一つ噛むことによって進みやすくなっていると思っています。
蟹澤委員	通勤だけでも結構な歩数になるとは思いますが、そこにプラスして1駅歩くということもあるのかと思いました。ありがとうございます。
岡村委員長	<p>会社の方は経営側から従業員の健康のため全員一同で行うやり方と、あとは保健指導の対象者に紹介すると、個人が自主的にやるというところがあります。協会けんぽとしては、県や市がやっているアプリなどの事業を皆さんに使ってもらえれば費用負担がないため紹介すると皆さん取り組んでいただけます。小さい企業としては、独自で開発することはコスト的に難しいと思うので、企業としては、自治体が提供しているサービスを利用いただき、自治体としては参加者数が増えるので、そういった形の周知もいいのかと思います。</p> <p>意外と歩数計とアプリの参加者でそこまで差がない。もちろん年齢構成などは違うとは思いますが、似たような傾向が出ているというのが今回この報告書を見て分かった部分だと思います。</p> <p>機能のアップデートとしては、アプリの方が実施しやすいと思います。歩数計とかだと使用期限があったりするとは思いますが。ただ、スマートフォンは、そもそも端末の料金が高いため、個人のインフラに依存している部分もあるとは思いますが。</p>
事務局	歩数計は申込も物理的に郵送いただくなどコストがかかりインフラの整備が必要となります。そのため、アプリの方が機能のアップデートは実施しやすいです。
岡村委員長	ご高齢の方もいらっしゃるので、しばらくは歩数計を活用されますね。
事務局	ご高齢の方は、まだ歩数計でという方もいらっしゃいます。
<b>【議題4 生活習慣病および医療費への影響分析について】</b>	
事務局	資料3について説明
岡村委員長	<p>簡単に意義を私の方で言うておきます。歩くことと病気というのは評価が難しく、原因と結果がくるくるとひっくり返るものです。病気をしたから歩けなくなる方もいるし、逆に糖尿病や高血圧といった病気をしたから歩き始める人もいます。両方が入り乱れているということで影響の評価を得るためにどのようにしたらよいかという視点でこのような分析案になっています。</p> <p>例えば、病気で歩けない方が最初から分析対象にいと、この事業の効果とはい切りきれないため、病気にもよりますが退院して半年たっていない方がすぐ歩き出すのは無理でしょうということで、少なくとも評価開始前の半年以内に入院したよう</p>

	<p>な方は、対象から除いています。また、透析を受けている方も2日に1日は歩けないですし、医療費への影響も大きいので対象から除いています。</p> <p>事業開始初年度だけ見るとというモデルと参加後の変化も見るとというモデルを入れられていますが、参加後の変化だけ見てしまうと、今度は糖尿病や高血圧といった病気になったから歩き始めたという人の影響が入ってきてしまいます。そのためややこしくはなりますが、何通りかの形で分析を提案されているという風に考えていただければと思います。</p>
田口委員	<p>事業の効果を比較するのに、参加した人とそうでない人を比較するとおっしゃっていたと思いますが、事業に参加していない人でも健康に関心のある方がたくさん歩いているかもしれないという所で考えると、その比較で良いのかと思いました。参加していない人で歩行習慣がある人を取れたりするのであればその比較ができると思いました。いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>横浜市で保有している歩数のデータは、事業に参加している人のものだけになってしまいます。事業に参加されておらず歩行習慣のある人はこの群分けだと事業に参加していない群に入ってしまう。そこは分析にあたっての限界になってしまいうのかなと考えています。ただ、そこを調整するために、健診結果で30分以上歩いているという歩行習慣を伺っていたり、あるいは意識面で食習慣等の設問があるので、そういった部分で調整しながらある程度納得いただける範囲で分析を実施していくしかないのかなと考えています。</p>
田口委員	<p>そこは限界があるのかなと私も思いながら伺ってはおりますが、そういった歩行習慣がある人達が他のアプリ等を使っていて、そこを比較出来たら良いのかなと思います。</p>
蟹澤委員	<p>国保に入っている方が対象となっているが、企業の社会保険に入っている方がどうなのかという比較はどうなのでしょう。</p>
岡村委員長	<p>これは、市の方も考えられていると思いますが、国保に入っている人でウォーキングポイントに入っている人であれば、市でわかりますが、企業でやろうとすると、だれがウォーキングポイントに入っているかという情報が入手できません。個人情報協会は協会けんぽとしても出せず、横浜市としても協会けんぽに個人情報を出せない状況であるため突合ができない状態になっています。</p> <p>国保に入っている方でウォーキングポイントに入っている人は、こんないい効果があるということを分析し宣伝して、他の人に使ってもらおうということができると思います。1人1人に同意を得られれば別ですが、そういったレベルの話になってしまい実施は困難です。</p>
事務局	<p>横浜市としても、協会けんぽから情報をいただければ分析できますが、横浜市の中で持っていてオーソライズできたところで今やれるのが国保加入者となります。</p> <p>結局個人情報を持ってこなければいけないので、その主体のご了解が得られるところの部分しか分析できないというのが限界です。</p>
岡村委員長	<p>個人が特定できないデータなら出せるのでしょうか。</p>
事務局	<p>発表するときは個人情報がないようにしますが、情報を結び付けるときにどうし</p>

	でも個人の情報でもらってこないといけないのでそこにハードルがあります。
蟹澤委員	国保の中で分析してみて、こういう結果になりましたという事例になるということですね。
岡村委員長	そういった機運が高まったら、データの流通をどうしようとか、企業側でもやってみようという機運が起きると思います。
事務局	分析の対象数が多くないと、参加者と非参加者を比較して、相当差がでない、偶然ではない結果、統計的有意差がある結果とは言えなくなってしまいます。前回分析で出た高血圧新規発症抑制効果も60代のデータ数が多いので有意差が出ましたが、40代や50代はデータ数が少ないので結果を出すのが難しかったのですが、憶測になりますが、40代50代の方が効果はないのかということ、そういうことではないのだろうとは思っています。
岡村委員長	<p>分析にあたっては、最初に私が申し上げた、なぜこういう分析をしているのかという説明をしないとわざわざ難しいことをしていると思われると思います。原因と結果が循環していますので、どちらが原因で結果なのかを考え、分析していますと説明をきちんとしなければいけないと思います。</p> <p>あとは、1つのモデル(群)で全員効果が出たら自然現象なのか効果なのかかわからないため、比べるモデル(群)を複数作るというのも基本原則です。熱が出て薬を飲んだら熱が下がったときに薬の効果だったのか、自然に下がったのかかわからないため、複数のモデル(群)を比べる必要があります。学会で発表するような厳密さはいりませんが、最小限の範囲でこのようにやりましたという説明は要と思います。</p>
田口委員	もし加えていただけるのであれば、医療費分析の横浜市の背景、例えば、今どのような状況で、どこを問題視しているのかがあると伝わりやすいのかなと思います。
事務局	高血圧やそのほかの生活習慣病の状況はデータとしてありますので、そういったところを使いながら、来年度発表する際にはそういった背景を踏まえながらの発表を考えていきます。
岡村委員長	今回の分析では、医療費は入院と外来を分けていただいています。入院と外来の医療費の意味合いはかなり違います。入院は、生活の質も落ちますから、望んでする人はおそらくいません。一方、外来は予防のために病院を受診するところがあります。例えば脳卒中を予防するために、高血圧の薬を飲むという感じですね。すなわち外来医療費には予防するためのコストもかかっているため、入院医療費とは意味合いがかなり違ってきます。まずは入院するような病気にならないのが一番で、次はもっと健康で外来でも病院にかからないのがベストというのがあると思いますが、少し重みづけが違います。医療費分析はすべて混ぜてしまうと意味が変わってきてしまうので、そこも重要なことだと思います。
事務局	田口先生、全国の状況と比較し医療費の分析ができるかどうかは少し難しいかもしれないので、状況見ながら判断させていただければと思います。
田口委員	事業自体が医療費削減の意図があってはじめられたのかと感じたので、その経

	緯を説明できたらいいのではと思いました。
事務局	趣旨は分かりましたので、何ができるか考えてみます。
岡村委員長	この手の分析は、未来の医療費がこれから増えていくのを抑えますというもので、今病院にかかっている人を非難しているわけではありません。今は必要だから当然医療費かかっていらっしゃる方になりますので。そういう意味では、先々の医療費が抑えられるというのが非常に大事な視点ではないかと思えます。
<b>【議題5 その他】</b>	
事務局	<p>次回の選定等委員会でございますが、来年春頃の開催と考えております。</p> <p>令和4年度の事業実績、利用状況報告書、事業検証のご報告を中心とした議題を予定しております。日程については改めてお伺いをいたしますのでよろしくお願いいたします。</p>
岡村委員長	それでは以上をもちまして第16回よこはまウォーキングポイント共同事業者選定等委員会を終了したいと思います。皆様長時間お疲れ様でした。

以上